
3匹の怪獣

ちょり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

3匹の怪獣

【Nコード】

N5230P

【作者名】

ちより

【あらすじ】

3匹の怪獣の話をのんびり書いてく自己満足な話

最終的に3匹を通して一つのお話になればいいなあと考え中

1 匹目（前書き）

初めてかきました
未熟な点もございますし、読みにくいとも思われますが読んでくださったら幸いです。

1 匹目

むかしむかしでもないおはなし。

3 匹の怪獣のおはなし

あるところに1匹の怪獣がいました。

その怪獣は大きな体に大きな口、大きなおめめを一つもっていましたが彼には手も足もありません。

まるで大きな大きなナメクジの様な姿でした

その上彼は優しい怪獣だったので、お仕事で子供の夢に出かけて行っても子供たちの泣く顔を見るといつも悲しくなってしまうて怪獣も一緒に泣いてしまうのです。

そんな彼を周りの怪獣達はいつも馬鹿にします。

あいつはなんて醜い怪獣なんだろう！

手もなければ足もない！そのうえ性格さえもどんくさい！

子供一人泣かせられないなんて笑ってしまうよ！

1匹の怪獣はその自慢の大きなおめめからいつもいつも涙を流していました

ひとりぽっちで震えていました。

そんなある日、1匹の怪獣は小さな小さな女の子と彼女の夢の中で出会いました

今日こそは頑張るぞう！と意気込んで小さな小さな女の子を脅かしました

彼女は小さな小さな体に似合わない大きな声できゃあと叫びましたシメシメと思つた怪獣はもっと怖がらせてやろうと、大きなお口を

一杯に開けて一際大きな声で叫びました。

女の子はとうとう大声をあげて泣き出してしまいました
最初のうちは小躍りしてしまう位嬉しかった怪獣なのですが、女の子がとても悲しそうに泣くので怪獣もだんだん悲しくなってしまうました

怪獣は女の子にごめんね、ごめんね、と言いました

だけでも女の子は泣きやんではくれません

怪獣はこんな時、僕に無いものがあつたらよかったのにと思いました

もしも手があつたらこの子の頭を撫でてあげれたのかしら？

もしも足があつたら面白い踊りを見せてあげれたのかしら？

もしもおめめが二つあつたら怖がらせなかったのじゃないかしら？

怪獣の頭の中は”もしも”で一杯になつてしまいました。

そしてとうとう怪獣も女の子の隣で泣いてしまいました

女の子は怪獣がシクシクと大きな一つしかないおめめで泣くものですから、びっくりして怪獣を見つめました。

それでも怪獣は悲しそうにシクシクなっています。

女の子は勇気を出して怪獣に言いました。

「なんでそんなにないているの？」

怪獣は相変わらずシクシクと泣きながら言いました

「僕はみんなと違って足りない所ばかりなんだ」

女の子は頭をかしげて言いました

「何がたりないの？」

怪獣は大きなお口で言いました

「手と足ともう一つのおめめが足りないのさ！」

じつと女の子は怪獣を見つめて言いました

「でもあなたには大きなお口があるじゃない、きれいな大きなおめめがあるじゃない」

「それにあなたは今まで夢に出てきた怖い怪獣と違ってとても優しいわ」

怪獣はポロリと一粒涙を流しました。

「怪獣さん、あそびましょうよ」

女の子は可愛く笑っていました、怪獣の涙もすっかり止まってにっこり笑顔になりました。

そのあと二人は女の子の夢が覚めるまで一緒におしゃべりしていました。

それはとても楽しい時間でした

女の子の夢が覚め、怪獣も自分の世界に帰ってきました

またおしゃべりをしようねと約束をして帰ってきました

しかし子供を脅かせず、その上楽しく遊んできた怪獣を待っていたのは厳しい現実でした

怪獣は出来そこないの怪獣として新しく作り直されることになってしまったのです。

きまるやいなや怪獣はぐるぐると縄で縛られて他の怪獣たちに工場へと連れていかれました

さすがにいつも怪獣を馬鹿にしてくる他の怪獣達も同情と憐みを込めた瞳で怪獣を見つめています。

怪獣はおおきな一つしかないおめめでジッと見つめ返しました

工場につくと怪獣たちを作ってくれたおばあさんが言いました
良いかい？出来そこないの怪獣よ、お前はいまから生まれかわるのだよ。

身体をどろどろに溶かして新しくまた拵えてやるからね。

なんにも怖いことはないさね。お前さんを素敵な怪獣にしてやるよ。

怪獣はおばあさんの言葉を聞いて言いました。

次もまた僕につくってねと言いました

しかし怪獣はおばあさんの返事を聞くことなく、大きな大きな釜の中へ投げ飛ばされました

ザブンツと大きな音がして怪獣の体は釜の中に沈んでいきました
どろどろと怪獣の大きなナメクジの様なからだが溶けていきます

自慢だった大きなお口や、女の子にほめて貰った大きなおめめもど
んどん溶けていきます
怪獣は思いました

こんど新しく僕が僕になったなら

また女の子に会いに行こう

もしも新しい僕に手があったら手をつなごう

もしも足があったらかけっこをしよう

もしもおめめが二つあったら怖がらせたりなんてしないよ

そしてもしも新しい僕が今の僕のままだったら

また一緒におしゃべりしようね。

怪獣は小さく涙を一粒零しました

そして怪獣は2度と同じ怪獣になることはありませんでした

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5230p/>

3匹の怪獣

2010年12月16日02時46分発行